

第62回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2015年10月12日（月・祝） 10:30-16:50 連合会議室

2 参加者

矢島、渡邊、畠山、瀧上、宮嶋、藤原、小林、根本、川村、田口

3 前回議事録案の承認

一部の字句を修正して承認された。

4 中教審関連・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

○中教審関連

- ・8/20教育課程企画特別部会にて論点整理（案）が提示され、宮嶋委員が傍聴し、資料を持ち帰ったことが報告された。
- ・8/29, 30、京都大学防災研究所・地学教育研究集会（大阪・高槻）が開かれ、根本、上村、畠山、藤原、宮嶋の各委員が講演を行ったことが報告された。
- ・学術会議 広報科学力増進分科会高校理科教育検討小委員会で、必修理科に関する提言がまとめられ、現在、親委員会への査読に向けて、最後の文言の修正を行っていることが宮嶋委員から報告された。
- ・8/22, 23に行われた日本地学教育学会大会に根本、川村、藤原の各委員が参加し、大会中、三次教科調査官等と情報交換を行ったことなどが報告された。
- ・9/15に開催された「デジタル教科書」の位置付けに関する検討会議の会議に理数系学会教育問題連絡会がヒアリングの要請を受け出席し、JpGUからは根本委員がオブザーバーとして参加し、意見を表明したことが報告された。

5 協議

(1) 次年度パブリックセッションについて

- ・セッション提案内容（案）について、一部の英文の表現を修正して、承認された。
- ・地学系からの共同コンビーナは田口委員が務めることを決定した。
- ・今後の準備日程として、講演者の人選を行うことを承認した。

地学基礎及び地理基礎の内容提案 → 地学系・地理系各々1名の講演者を決める
アクティブ・ラーニングの実践報告 → 地学系・地理系各々1名の講演者を決める
求められる能力・資質 → 教育関係：川村委員、産業界：瀧上委員がコンタクトを取る

(2) 中教審・教育課程企画特別部会の論点整理分析及び新「地学基礎」の検討方針について

論点整理を基に以下のような方向で新「地学基礎」の内容検討を進めることを確認した。

- ・知識獲得ベースではなく、資質・能力の育成ベースの発想にたつ。
- ・次期指導要領に引き続き「地学基礎（2単位）」が設定されることを前提にして、社会から求められる内容を吟味する。
- ・いわゆるアクティブ・ラーニング、すなわち探究活動に適した内容を検討する。
- ・探究活動の時間を保証するため、知識に関する部分は精選することが必要となる。

その他、以下のような観点の検討も必要との出された。

- ・現行学習指導要領では、「地理A」にて防災に関する内容が扱われているが、次期学習指導要領で「地理総合（仮称）」が必修化される見通しから、防災に関する地理と地学の棲み分けを検討するべきである。

なお、上記の検討は来年5月の連合大会で公表し、同時に文科省への提言としてまとめる必要性も指摘された。

(3) 今後のスケジュールについて

教科書に掲載された用語不統一の実態調査を受けて、地学系内での教科書用語の統一に向けて、根本委員がチーフになって、今後の検討を進めることを確認した。

6 次回小委員会

11月中旬以降、11月中に次回小委員会を開催するべく、開催日をメールで調整することとした。なお、本日確認した新「地学基礎」の検討方針に基づき、各自が具体案を作成し持参することを確認した。